

『寺内タケシ ギター・ソングス “ザ・スタンダード+2”』

文・伊藤博伸

半世紀ほど時間を遡れば、エレキギターを弾く若者は不良だ、と言われた。今思えば「はっ？」だが、昭和の中期はそういう時代だった。

そこに現われたのが、寺内タケシ。刀を携えた武士のように、エレキギターを抱えて颯爽と登場した電気ギターの武者は、当時の僕ら少年の憧れだった。

その後、民放テレビ局で放映された「勝ち抜きエレキ合戦」（寺内は審査員）を機にエレキギターは市民権を得る。当時、ギター少年たちのお手本となっていたのが、ザ・ベンチャーズと寺内タケシだった。その華麗な早弾きテクニックを懸命にコピーしたギター少年も多かったはず。

そんな我らがギターレジェンド、エレキの神様、寺内タケシが時代を超えたスタンダードの名曲を奏でたギター・インストゥルメンタル・アルバム『寺内タケシ ギター・ソングス“ザ・スタンダード+2”』がリリースされる。

本作は、1968年から74年まで「8トラック・シリーズ」として発売されたオリジナル音源から全37曲を選曲。半世紀以上に及ぶキャリアの中で、ポップスやロック、ラテンやシャンソン、クラシックや日本民謡など、ジャンルを問わず幅広い楽曲をカバーしてきたベストテイクの中から、スタンダードの名曲を厳選したスペシャルな2枚組CDである。

アナログレコード盤を感じさせる紙ジャケット仕様でのリリースというのもアナログ世代には嬉しい。

DISC-1には、ザ・ビージーズの「マサチューセッツ」やライチャス・ブラザーズの「アンチェインド・メロディー」、ヴィッキー・レアンドロス（ポール・モーリア・オーケストラのインストで有名）の「恋はみずいろ」やタンゴの代表曲「ラ・クンパルシータ」、ザ・ベンチャーズの「十番街の殺人」「アパッチ」「キャラバン」や『007』シリーズの映画音楽「ロシアより愛をこめて」「ゴールドフィンガー」など、ジャンルを跨いだスタンダード曲をカバー。

またDISC-2では、「夜霧のしのび逢い」（同名映画）やB.J.トーマスのヒット曲「雨にぬれても」（映画『明日に向かって撃て』）、「ムーン・リバー」（映画『ティファニーで朝食を』）や「禁じられた遊び」（同名映画）など映画音楽を中心に選曲。他にも、ラテンのスタンダード曲「ある恋の物語」やシャンソンの代表曲「枯葉」などを、時に軽快に、時に繊細に、時に大胆に、時に早弾きで、といった寺内らしいギターアレンジでカバーしている。

寺内のアレンジで特筆すべきは、原曲のメロディーを大切に奏でているということだろう。オリジナルのメロディーにはほぼ手を加えずに、ギターの音色や奏法、アレンジで曲に華を添える。作者に敬意を払いつつ、自らの色もそこに注いでいるところに、彼のカバー作品に対するポリシーを感じるのだ。

このニューアルバム他に、神奈川県民ホールでのコンサート（94年5月23日、98年8月29日）の懐かしい映像ビデオをデジタルリマスターしたBlu-ray『寺内タケシ エレキ！エレキ！エレキ！in YOKOHAMA』も同時発売。

没後1年、エレキギターの神様は、ギター・インストゥルメンタル・ミュージックの魅力を今も伝え続けてくれる。